

戦争と平和の資料館

ピースあいちニュース

第23号

2016年8月1日発行

〒465-0091
愛知県名古屋市名東区
よもぎ台2丁目820
電話・FAX 052-602-4222



発行:戦争と平和の資料館ピースあいち <http://peace-aichi.com/> 【定価:30円】

「私の八月十五日展」マンガ家・戦争体験者—あの日の記憶

7月19日(火)～8月31日(水)

戦後50年を迎えた1995年に、森田拳次・ちばてつや・赤塚不二夫さんたちが「中国引き揚げ漫画家の会」を設立し、体験を漫画と文章で表現しました。その後、やなせたかし・水木しげるさんたち漫画家や日野原重明・高倉健・黒柳徹子・山田洋次・杉下茂さんなど100人を超える方たちが共感し、記憶を寄せられました。それらをまとめて、2003年に「私の八月十五日展」として公開されました。その後、この展覧会は全国各地で開催され、大きな関心を集めています。名古屋では初めての試みです。

今回は、これらの証言から37点のパネルと、さらに一般募集した16点の作品も展示します。いずれも平和への思いが伝わってきます。

安保法制が国会を通過してからもうすぐ1年が経ちます。この法案の内容から、今は戦前のようにとも言われます。そうならないためにも、この企画展をとおして8月15日の記憶をもう一度呼び起こしたいと思います。

7月31日(日)午後1時30分からは、「丸出だめ夫」な

あの日、青い空の下で...

2016年 7月19日(火)～8月31日(水)

マンガ家・戦争体験者—あの日の記憶

森田拳次 ちばてつや 赤塚不二夫

「私の八月十五日展」

7月31日(日)13:30～1時 交際ののび

おかげさまでドニエロ きつぷは発売10周年

ドニエロきつぷ、一日乗車券を利用してご来館の方は、50円割引!

【大人】500円～450円 【小中高生】200円～150円

「私の八月十五日展」ポスターなどのギャグ漫画の漫画家であり、「八月十五日の会」代表理事である森田拳次さんの講演を「ピースあいち」で行います。(要予約 TEL 052-602-4222)

会期中は日曜開館します。(休館日は月曜日)
大人500円 小中高生200円(入館料を含む)

peace nine 2016 巡回展

9月6日(火)～9月24日(土)

名古屋芸術大学の若い、あるいはさまざまな世代の表現者たちが、美術の分野から「平和」への想いを発信。期間中は「ピースあいち」が小さな美術館のようになります。



展示予定作品より

企画展「戦争の中の子どもたち」

9月27日(火)～12月3日(土)

絵本・おもちゃ・雑誌など「ピースあいち」が所蔵する実物資料やパネルを展示し、「少国民」と呼ばれ、「戦争に勝つため」「兵士になるため」の教育を受けた、戦時下の子どもたちの生活や学校教育を紹介します。



昨年の展示

2016年 夏の戦争体験語りシリーズ

恒例の語りシリーズ。今年には以下のスケジュールで行います。

月日	語り手	年齢	体験の概要	月日	語り手	年齢	体験の概要
8月2日(火)	橋本克己	80	満蒙開拓団 引き揚げ	8月10日(水)	河村廣康	92	シベリア抑留体験
8月3日(水)	佐々木あき	86	豊川海軍工廠の空襲体験	8月11日(木)	中野 巖	88	海軍航空隊での軍隊生活
8月4日(木)	中野見夫	77	熱田空襲	8月12日(金)	萩原量吉	75	ゾウ列車で東山動物園へ
8月6日(土)	木下富枝	80	広島原爆体験	8月13日(土)	筧 久江	84	勤労働員と空襲
8月7日(日)	田邊登志夫	88	海軍での軍隊生活	8月14日(日)	平田和香	75	満蒙開拓団の調査・研究
8月9日(火)	望月菊枝	86	学徒動員と空襲体験				

●時間 午後2時～3時 ●会場 ピースあいち1階
*入館料(大人300円、小中高生100円)でご参加いただけます。

2回目の「原爆の凶展」を開催

3月15日(火)～5月7日(土)

「ピースあいち」では原爆の凶丸木美術館のご協力のもと、丸木位里・俊夫妻の原爆の凶第4部《虹》と第8部《救出》の2作品による「原爆の凶展」を開催しました。

今回は1回目(2012年7、8月、第5部《少年少女》、第12部《とろう流し》)に続く2回目の展覧会です。春の季節での開催でしたので、来場者数が懸念されましたが、約700人の来場を得ることができました。

3月20日(日)には丸木美術館学芸員岡村幸宣さんによるギャラリートークがあり、4月17日(日)にはアーサー・ビナードさんによる自作紙芝居『やわらかい はだ』の上演と講演会も行われました。

来場者アンケートを紹介します。

「原爆の凶」初めて鑑賞しました。「救出」に登場するリヤカー脇の男性のまなざしは、どの角度からも視線が合い、「目をそらさないでくれ」と訴えているように感じました。また、手を合わせる女性と子どもの姿も、惨状の中で人の心を忘れないところに心を打たれました。(38歳男)



原爆の凶第4部《虹》の展示風景

丸木夫妻の遺品も展示されました。



原爆の凶を全部見たくまりました。(34歳男)

「原爆の凶」はずっと見たいと思っていました。昨年、北名古屋市の芸大で沖縄戦の凶を見て、原爆の凶もと思っていたからです。丸木夫妻の絵は本当に心にストンと響き、目頭が熱くなります。足を運んでよかったです。(45歳女)

このようなみなさんの要望や期待にこれからもピースあいちが応えていきたいと思います。今回無事に開催できたことで、来年以降の開催に可能性が出てきました。これが今回の展示会の一番大きな成果でした。

「2016年沖縄展 辺野古から沖縄・日本を考える」展を終えて

5月24日(火)～7月2日(土)

辺野古では基地建設反対運動が続きます。辺野古とはどんなところか、なぜそこに米軍基地が要るとされたのか、なぜ建設に反対するのか、沖縄に米軍基地が多いのはなぜか、沖縄の反対を押し切る日本政府、米国の理由づけ、約束はどうか、等々を考えてきました。他方で長い歴史と文化を誇る沖縄人が、自己決定権を唱えて「オール沖縄」に結集する姿に「知恵と底力」を見た思いがします。長い間本土が強いた犠牲で、沖縄人の意識に「構造的被差別」感を生み、本土人が沖縄を「無意識のうちに植民地」のようにしてきたことも学びました。

これまでの無理解と身勝手さを自覚し、米軍基地問題は沖縄だけの問題ではなく日本の問題であり、日本と米国との問題であるということ、辺野古のニュースを見聞きするたびに、思い起こそうと思います。

- 同時開催「石川文洋写真展・辺野古」
- 映画上映会「沖縄 うりずんの雨」(6月4日)
- 講演会「沖縄の怒り・哀しみを識るためには～辺野古の海の恵みと暮らしを脅かすモノ～」
阪井芳貴名古屋立大学教授(6月11日)



展示風景



「石川文洋写真展・辺野古」



講演前の「ピースリーディング」 阪井先生の講演会



民間戦没船とその犠牲者に光をあてる 「民間戦没船と船員の記録」展

7月5日(火)～15日(金)

「海のほかにその墓をもたず」。

アジア・太平洋の広い海域で戦没した船員は6万名余、戦没した船舶は1万5千隻余、船と運命を共にした船員と多数の兵士や民間の乗船者は、今も海底に眠っています。この戦争による船舶の被害は833万総トン、船員の死亡率は軍人の2倍以上といわれ、軍に徴用されて北はアリューシャン列島から南はソロモン諸島に至る広大な海域で、軍事作戦や補給輸送などに従事しました。

戦後、軍人には手厚い恩給が支給されましたが、船員の補償は薄く、戦没した民間船も補償されませんでした。政府・防衛省が民間の船員を「予備自衛官補」として有事に徴用する計画を立てている今、忘れられている民間戦没船とその犠牲者に光をあて、平和の尊さを訴えました。



SEALDs×ピースあいち 「行動する主権者になる!ー私が幸せになるためにー」 5月29日(日)

学生グループSEALDsの奥田^{あき}愛基さん、経済学者の森原康仁さん、戦争体験者の鈴木忠男さんのお三方を招き、表題の「若者企画第二弾」を行いました。「ピースあいち」では異例の経済の勉強会を企画したのは、「戦争がないだけが平和じゃない」という新しいメッセージを提示したかったからです。上の世代とは比較にならない経済的苦境に置かれた今の若者たち。安心して学び働ける真に平和な社会を実現するには? その問いかけに、若い奥田さんは瑞々しい自分だけの言葉で真摯に答えてくださいました。また、森

原さんの的を射た経済トークに何度も頷き、鈴木さんの重い言葉を受け止め、120人の来館者で立ち見も出た会場はたいへん盛り上がりました。



←講演する奥田愛基さん

過去最高の実施回数 「戦争体験を語る事業」

2009年に始まった「ピースあいち語り手の会」の活動も7年目に入りました。2015年度は戦後70年という節目の年を迎え、戦争をテーマにした記事が活発に報道され、また関連イベントも各地で実施されました。

これに喚起されてか戦争体験の語りの依頼が急増し、事業は活況を呈しました。小学校から大学まで学校関係では53校、聞き手は3,210人、子供会や遺族会などの各種団体では35団体、聞き手は2,568人、合計88回、5,778人に達しました。

これに8月1日から15日までの間の恒例の「夏の語りシリーズ」では、戦場体験者10人の方に語っていただき、各回とも満員の盛況で総数751人の方々に聞いていただきました。

合わせて実施回数は過去最高の98回(前年70回)、また聞き手は6,529人(前年4,059人)でした。



語り手
佐藤誠治さん
(2015.10.2 江南市立古知野西小学校)

語り手
橋本克巳さん
(2015.10.27 扶桑町立扶桑東小学校)



来館団体の多さは開館の年以來

2015年度に来館した団体は67団体、2,259名で、オープンした2007年以來の多さでした。

最近では「ホームページ」を見て申し込んだという学校を含む団体が増えてきました。修学旅行のコースに組み込んで、大阪の寝屋川市から小学生が観光バスで来館したのはその一例です。三重県の伊勢市や滋賀県の東近江市から中学生が、やはりバスで社会見学の一環として訪れました。労組の団体が大阪や三重県、東京からも来館し、常設展示をじっくりと見学していききました。

全国的に知名度が上がるのはうれしい事です。でも「ピースあいち」は名古屋市にあるのですから、愛知県内の小学生、中学生がもっと多く来館してくれることを期待しています。



晴天に恵まれて、開館9周年「ピースまつり」

5月8日(日)

たくさんのお客様にリニューアルした展示を見ていただきました。今年は、現職のお坊さんがリーダーの「そらくろ(「空と風のクロスロード」)」のコンサートがありました。



総会の報告

活発に意見が交わされる

6月11日(土)、当館1階ホールで会員35名が集い、2016年度の通常総会を開いた。議事に先立って森島昭夫理事長は、次のように述べられた。「当館が安定的活動をするためには、ボランティアの確保と財政的な裏付けが欠かせません。このためには、会員の大規模な確保が必要ですよ」と。



このあと議事に入り、2015年度の事業報告・決算報告・監査報告を承認。次いで、2016年度の事業計画と予算を審議、会員の拡大に努めることを申し合わせ、可決。このあと、懇談の形で質問、意見が交わされ、和やかなうちに終わった。

資料館探訪 16

舞鶴引揚記念館

—シベリア・満州引揚げの実相を展示

敗戦にともない、当時海外に残された日本人は660万人いた。舞鶴港は1958年の最後の引揚船まで、13年間にわたり66万人の引揚者・復員者を迎え入れた。その跡地の丘に、1988年「引揚記念館」として舞鶴市によって建設された。両面に写真を貼られたトンネルを抜けると、「苦境の記憶」「帰還そして再会」と題された展示室がある。満州やシベリアからの引き揚げの実態がよく分かる展示である。それらの中での圧巻は2015年に世界記憶遺産に登録された「白樺日記」と言われる白樺の皮に書かれた記録である(写真)。よく日本に持ち帰ってこられたものだ。持主の不撓の精神に感動させられる。



昨年の入場者は13万人であったとのこと。私が訪れた日も10数台の観光バスが来ていた。館としては平和教育に力を入れ、舞鶴市の小学校6年生は見学が必須になっているとのことでした。(N)

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

ぜひ「ピースあいち」の会員に!

昨年度は戦後70年の節目でもあり、「ピースあいち」は2Fの常設展示を、空襲のサイレン音を聞いたり、防空頭巾等の体験コーナーを設けたり、展示パネルにより適した戦時資料に替えるなどリニューアルしました。

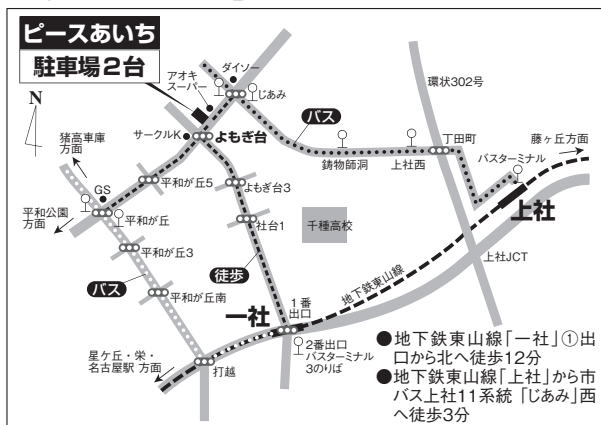
「ピースあいち」の基本財源は、入館料(大人300円・子ども100円)と会員の皆さんの年会費(正会員6000円・賛助会員3000円)です。来館者数は、開館した2007年は約12,000人、以後は6,000人前後で推移してきました。

現在会員数は946名(正会員342名・賛助会員604名)ですが、「ピースあいち」の年間経費約1,200万円には大きく足りません。不足分は不確定な寄付金や助成金に頼って運営しています。自主財源の確立は、まず会員の拡大です。ぜひ多くの方に会員になっていただき「ピースあいち」を支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・年末年始
- 入館料 大人 300円 小中高生 100円
- 2階の常設展示室のほか、1階の「現代の戦争と平和」というテーマの常設展示。ほかにも準常設展示として「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」があります。1階には戦争に関する図書や戦争体験談のDVDライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

「ピースあいち」への交通のご案内



●編集後記●

「一強多弱」を手にした安倍保守政権は暴走をはじめた。「戦争をしない国」と決めたこの国を「戦争ができる国」に変えようとするのだ。「安保法制」を慌ただしく策定、公布するところなどを見ると、「戦争をしたがる国」にしようとしているように思えてならない。「日本国憲法を守り、平和を守ろう」という本館の使命と役割はいっそう重要である。今こそ、一人ひとりが、平和の尊さを訴える声を上げることが肝要である。

この国の最後の戦争が終わって70年余、私たちは「平和」という一本道を歩んできたが、ここきて二差路に出くわした。右の道を行けば戦場に出会う。私たちは道を誤らず、「平和の道」を歩き続けたい。(S)